

神奈川県医療審議会次第

日 時 令和5年3月15日（水）
18時30分から20時30分
場 所 Web開催
（神奈川県総合医療会館
2階災害時医療救護本部
（テレビ会議室））

1 開 会

2 議 題

- （1）医療法第7条第3項の許可を要しない診療所の決定について（諮問）
【資料1】

3 報 告

- （1）第8次保健医療計画の策定について 【報告資料1】
（2）相模原地域の病床の取扱いについて 【報告資料2】
（3）自衛隊横須賀病院の病床の取扱いについて 【報告資料3】
（4）令和4年度の病床整備に関する事前協議について 【報告資料4】
（5）地域医療介護総合確保基金（医療分）令和5年度神奈川県計画について
【報告資料5】
（6）医師の働き方改革に係る特例水準の指定について 【報告資料6】
（7）令和4年度医療法人部会からの報告について 【報告資料7】

4 その他

5 閉 会

【資料一覧】

(※) 資料1 医療法第7条第3項の許可を要しない診療所の
決定について（諮問）

(※) 報告資料1 第8次保健医療計画の策定について

報告資料2 相模原地域の病床の取扱いについて

報告資料3 自衛隊横須賀病院の病床の取扱いについて

(※) 報告資料4 令和4年度の病床整備に関する事前協議について

報告資料5 地域医療介護総合確保基金（医療分）令和5年度神奈川県
計画について

報告資料6 医師の働き方改革に係る特例水準の指定について

報告資料7 令和4年度医療法人部会からの報告について

(※) のついた資料につきましては、会議終了後回収いたします。

取扱注意

第8次神奈川県保健医療計画の策定について (第7次計画の進捗評価／骨子案)

Kanagawa Prefectural Government

概要

- 現在、事務局において、第8次保健医療計画の策定に向けて、次の取組みを実施しています。
 - ① 現行の第7次保健医療計画の進捗評価
 - ② 第8次保健医療計画の骨子案（仮組み）の作成
- 本資料では、
 - ①について、現時点の進捗評価の概要
 - ②について、現時点の骨子案（仮組み）をそれぞれ報告するものです。

Kanagawa Prefectural Government

目次

- 1 令和4年度第2回保健医療計画推進会議の振り返り
- 2 第7次保健医療計画の進捗評価について
(各事業課における進捗評価のとりまとめ概要)
- 3 第8次保健医療計画の骨子案(仮組み)について

1 令和4年度第2回保健医療計画推進会議の振り返り

【令和4年度の取組】

令和4年9月26日令和4年度第2回保健医療計画推進会議資料

第7次保健医療計画の進捗評価

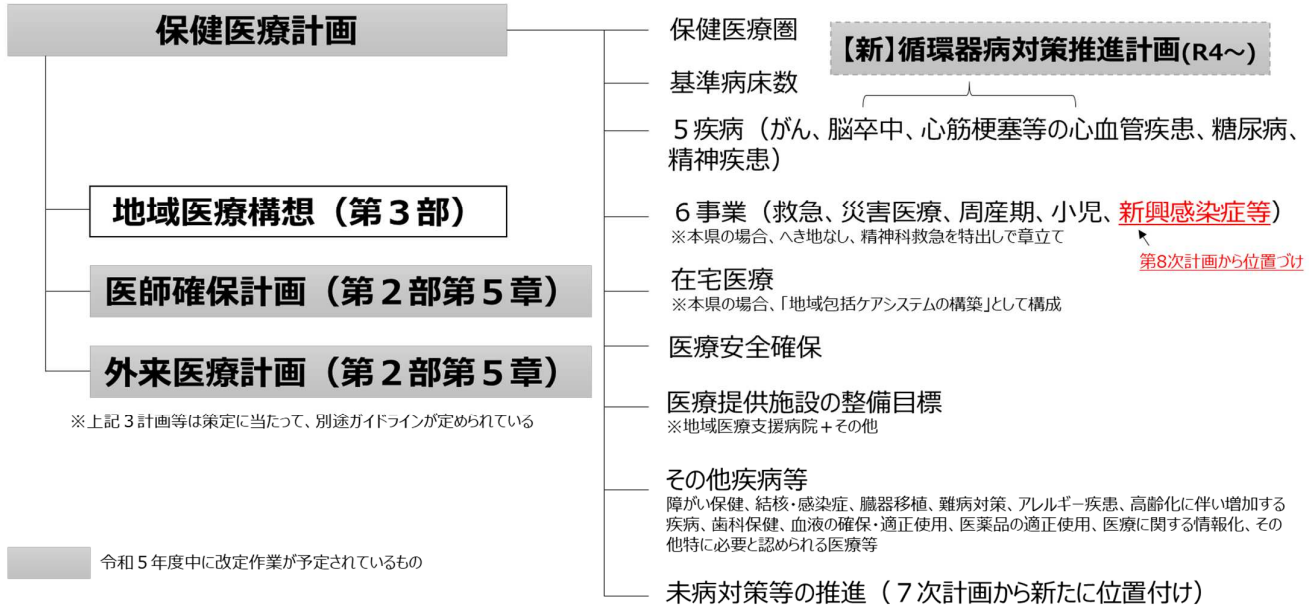
- 各項目において、策定時から現時点までの振り返り作業を実施する。
- 目標値を設定している5疾病・5事業、在宅医療について実績値の推移、達成状況の評価及び要因分析、課題等を明らかにする。
- 目標値を設定していない項目についてこれまでの取組みを定性的に総括し、課題等を明らかにする。

骨子案の検討

- 第8次医療計画策定の拠りどころとなる「医療計画作成指針」等については、国において現在検討が進められており、令和4年度末頃に示される予定
- そこで、現在の指針等を参考に、国の検討状況等も注視しながら、計画の進捗評価の作業と並行して計画の骨子案の検討を開始する。
- 検討に当たっては、一部の府県で採用しているロジックモデル(ある施策がその目的を達成するために至るまでの論理関係を明示した図など)の取組みも参考にする。

1 令和4年度第2回保健医療計画推進会議の振り返り

【保健医療計画の全体構成】



2 第7次保健医療計画の進捗評価について （目標値を設定している項目：概要）

※本日お示しする内容は、事業所管課による自己評価のとりまとめ概要です。今後、当該資料を基に関係する各会議体において協議を重ね精査していく予定です。

2 各事業課における進捗評価のとりまとめ概要

【事業】総合的な救急医療

実績	達成が見込まれる目標値の数 → 2件 / 3件中
評価 ・ 要因 分析 コロナ の影響 <有>	<p>【重症以上傷病者の搬送件数（全体に占める、現場滞在時間が30分以上の割合）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成30年から令和元年度の救急出動件数及び搬送人員が、全国的に増加しており、当該件数についても、全国・本県ともに増加している このため、重症以上傷病者の搬送件数が、平成28年から令和元年の平均が8.08%となり、目標の7.87%以下を超えた。 一部目標は、<u>コロナ流行以前は、順調に数値が増加し、目標値を達成していたが、令和2年には減少となった他、普通救命講習受講者数も令和2年に大きく減少している。</u>
課題	<ul style="list-style-type: none"> 目標値を設定している「重症以上傷病者の搬送件数（全体に占める、現場滞在時間が30分以上の割合）」、「心肺機能停止傷病者全搬送人員のうち、一般市民による除細動実施件数」について、コロナの影響をどこまで考慮するか検討する

2 各事業課における進捗評価のとりまとめ概要

【事業】精神科救急

実績	達成が見込まれる目標値の数 → 0件 / 2件中
評価 ・ 要因 分析 コロナ の影響 <有>	<p>【平日夕方から夜間の受入医療機関数】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現行計画期間中に8施設→9施設とすることを目標にしていたが、新型コロナウイルスの拡大により既存の輪番体制の確保が困難となり、受入医療機関数を増やすことができなかった。 <p>【精神科救急・身体合併症対応施設数】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現行計画期間中に6施設→7施設とすることを目標にしていたが、新型コロナウイルスの拡大により病院との調整が行えず、目標達成ができなかった。 なお、新型コロナウイルスへの対応として「精神科コロナ重点医療機関」を設置し、精神疾患と新型コロナウイルス感染症を合併する患者の受入体制を確保することができた。
課題	<p>【平日夕方から夜間の受入医療機関数】</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者及びその家族等からの相談受付体制や、救急医療機関の受入態勢の切替わりに伴う受入困難な時間帯の解消 大型連休、年末年始における、既存の輪番体制における受入病床の確保 など <p>【精神科救急・身体合併症対応施設数】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢化に伴う身体疾患への対応ができる医療機関の整備 など

2 各事業課における進捗評価のとりまとめ概要

【事業】 災害時医療

実績	達成が見込まれる目標値の数 → 1件 / 3件中
評価 ・ 要因 分析	【複数のDMATを保有する災害拠点病院の数】 ・新型コロナにより、国が主催する日本DMAT隊員養成研修が中止や規模縮小となり、複数チームの保有に向けた隊員確保まで思うように進まなかった。 【EMISの操作訓練を実施している病院の割合】 ・目標達成に向けて令和3年度からEMISに登録している県内全医療機関を対象に、県主催でEMIS操作研修を年1回開催するようにした。しかし、新型コロナ患者の受入れが広く一般医療機関にも求められるようになってきたためか、実績が上がらなかった。 【かながわDPATの登録数】 ・目標値（R5）である18登録医療機関等を達成できた。今後も継続して研修開催が必要
課題	【EMISの操作訓練を実施している病院の割合】 ・今後はより短期かつ進捗管理につながりやすい数値目標を設定することを視野に入れて検討を進めていきたい。 【かながわDPATの登録数】 第7次計画の目標が達成できたので、次期計画に向けて適切な目標設定を検討する。

2 各事業課における進捗評価のとりまとめ概要

【事業】 周産期医療

実績	達成が見込まれる目標値の数 → 2件 / 3件中（1件は国調査未実施により把握できず）
評価 ・ 要因 分析	【周産期救急医療システムの充実】 ・新たに横浜市南部病院を地域周産期母子医療センターとして認定することで、システムを支える枠組みはより強化された。 ・東京都との間で、「県域を越えた周産期搬送体制構築に向けた試行」の継続の必要性を確認することで、安定的な医療提供体制の維持につなげている。 【NICU等周産期施設等の整備・充実】 ・県立こども医療センターのNICUについて、特に重症事例が集中する総合周産期母子医療センターの特殊性等に基づき増床することで、全県での安定的な医療提供体制の強化に結び付いた。
課題	・医師の働き方改革も踏まえ、周産期医療圏の見直し・集約化等の調整を進めていく必要がある。 ・県内における分娩取扱件数、各医療機関等における分娩取扱件数をいずれも増加させるため、引き続き分娩手当への補助を着実に実施する必要がある。

2 各事業課における進捗評価のとりまとめ概要

【事業】小児医療	
実績	達成が見込まれる目標値の数 → 0件 / 3件中
評価 ・ 要因 分析	<p>【傷病程度別の乳幼児の搬送割合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値は未達成。大部分は軽症が占めているが、目標値をやや高めに設定したことも要因か。 <p>【一般小児医療を担う病院数（小児10万人あたり）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値は未達成。一般小児医療を担う病院数を増やすための取組みを特に実施できていないことも要因か。 <p>【小児医療に係る病院勤務医数（小児10万人あたり）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値は未達成だが、計画策定当初と比べると、増加傾向にはある。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・施策と目標の関連性の明確化と目標項目の見直しが必要である。 ・地域枠医師の定着化、自治医科大学卒業医師の派遣先を含め、小児医療に係る医師数の確保を図る。

10

2 各事業課における進捗評価のとりまとめ概要

【疾病】がん	
実績	達成が見込まれる目標値の数 → 0件 / 2件中
評価 ・ 要因 分析	<p>【がん検診受診率及びがん精検受診率】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべてのがん種において目標値（50%、90%）に達成していない。 ・市町村で実施するがん検診については、各自治体の状況を把握した上で、対策を検討する必要がある。 ・職域のがん検診については、実態把握自体が困難であることから、国の取組みを注視する。 ・今後、県としては、個々の市町村や職域への働きかけはもちろん、市町村や職域の枠を超えた対策を検討していく必要がある。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・施策と目標の関連性の明確化と目標項目自体の見直しが必要である。

11

2 各事業課における進捗評価のとりまとめ概要

【疾病】脳卒中	
実績	達成が見込まれる目標値の数 → 1件 / 7件中
評価 ・ 要因 分析 コロナ の影響 <有>	【特定健康診査・特定保健指導の実施率】 ・ 特定健康診査及び特定保健指導の実施率は上昇傾向だったが、特定健康診査は、 <u>個人事業主などの受診率が低く、また、特定保健指導は、コロナ禍で対面による保健指導の実施が難しかったこと等から、実施率が伸び悩んでいる。</u> 【脳梗塞に対するt-PAによる脳血栓溶解療法適用患者への同療法の実施件数】 ・ 目標達成の見込みが低かったことから、実態調査を行ったところ、交通事情等の社会的要因も影響が大きいことが明確になりつつある。
課題	【特定健康診査・特定保健指導の実施率】 ・ 課題背景を考慮し、対策を推進するとともに、 <u>関係各所の連携が必要。</u> 【その他の目標値】 ・ 実績値の把握が困難であったり、事業化が難しい <u>目標値（指標）</u> について、 <u>見直しや正確な数値の把握の方法などを検討する必要がある。</u>

.2

2 各事業課における進捗評価のとりまとめ概要

【疾病】心筋梗塞等の心血管疾患	
実績	達成が見込まれる目標値の数 → 2件 / 9件中
評価 ・ 要因 分析 コロナ の影響 <有>	【特定健康診査・特定保健指導の実施率】 ・ 脳卒中と同様 【心大血管リハビリテーション料届出施設数】 ・ 届出施設数は順調に増えており、令和5年度当初予算で関連する施策を事業化も予定されていることから、目標達成できる見込みである。
課題	【特定健康診査・特定保健指導の実施率】 ・ 課題背景を考慮し、対策を推進するとともに、 <u>関係各所の連携が必要。</u> 【その他の目標値】 ・ 実績値の把握が困難であったり、事業化が難しい <u>目標値（指標）</u> について、 <u>見直しや正確な数値の把握の方法などを検討する必要がある。</u>

13

2 各事業課における進捗評価のとりまとめ概要

【疾病】 糖尿病

実績	達成が見込まれる目標値の数 → 0件 / 3件中
評価 ・ 要因 分析	【特定健康診査及び特定保健指導の実施率】 ・目標値は未達成。2019年度までは上昇傾向も、特定健康診査は、特に多忙な個人事業主等の受診率が低く、市町村国民健康保険の加入者を中心に受診率が伸び悩んでいる。また、特定保健指導は、コロナ禍で対面による保健指導の実施が困難だったことなどから、市町村国民健康保険加入者を中心に実施率が伸び悩んでいる。 【糖尿病有病者（40～74歳）】 ・目標値は未達成。直近実績値（平成30年）の26万人は、計画目標である22万人より多く、増加傾向にあるが、全国的にも糖尿病有病者数は増加傾向にある。
課題	・施策と目標の関連性の明確化が必要である。 ・保健指導にあたる保健師の確保や、糖尿病対策にあたる専門的知識のもとに保健指導を行う人材の育成に取り組む必要がある。 ・引き続きハイリスクな糖尿病治療中断者・未治療者を適切な治療につなぐ受診勧奨推進事業に取り組む必要がある。

14

2 各事業課における進捗評価のとりまとめ概要

【疾病】 精神疾患

実績	達成が見込まれる目標値の数 → 2件 / 7件中
評価 ・ 要因 分析	【かかりつけ医等うつ病対応力向上研修受講者数】 ・受講者数は増加しているが、コロナの影響で目標値には到達していない。 【依存症専門医療機関数】 ・既に専門医療機関として認定した以外に依存症の専門的治療に取り組んでいる医療機関がなく、新たな医療機関を増やすことができていない。 【平日夕方から夜間の受入医療機関】 ・目標値は未達成。コロナの影響で既存の輪番体制の確保が困難となり、新たに受入れ医療機関数を増やすことができなかった。 【精神科救急・身体合併症対応施設】 ・コロナの影響で病院との調整ができなかった。 【病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修の受講者数】 ・コロナの影響で中止や参加者数削減となるが多かった。
課題	・施策と目標の関連性の明確化が必要である。

15

2 各事業課における進捗評価のとりまとめ概要

在宅医療	
実績	達成が見込まれる目標値の数 → 4件 / 10件中
評価 ・ 要因 分析 コロナ の影響 <有>	【在宅療養支援診療所・病院数】 ・在宅医療トレーニングセンター研修事業等により、在宅療養を担う人材育成の推進を行っており、着実に施設数は増加しているが、コロナ禍の影響で実技研修の開催回数の減もあり、目標達成には現状との乖離がある。 【訪問看護事業所数】 ・県内の訪問看護ステーション数は年々増加しているが、およそ半数は横浜圏域に集中している。また、従事する看護職員数は全国平均60.5人(人口10万人対)を下回っているため、訪問看護を担う看護職員の確保は必須である。 ・また、訪問看護ステーションや訪問看護職員を増加していくためには、看護職員が継続して就業できるよう、教育体制を含めた職場環境の整備と安定的なステーション運営が必要（訪問看護ステーションは毎年40程度休廃止）であり、訪問看護管理者研修、新任訪問看護師育成事業について継続が必要である。

16

2 各事業課における進捗評価のとりまとめ概要

在宅医療	
評価 ・ 要因 分析	【薬局における訪問薬剤管理指導又は居宅療養管理指導を受けた者の数】 在宅医療に携わる薬局が増え、「薬局における訪問薬剤管理指導又は居宅療養管理指導を受けた者の数（レセプト件数）」は、令和2年度で目標値を達成した。 【その他】 こども医療センターへの委託事業を中心に、小児の在宅生活を支える医療ケア従事者同士の連携やスキルの向上に向けた取組みを推進。また、市町村に対して、会議体設置に関する支援を行ったことにより、連携体制の構築が図られた。
課題	・訪問看護を担う看護職員の必要数を把握し、目標の設定及び確保策の検討するとともに、訪問看護ステーションの経営基盤の安定化に関する施策を検討する。 ・医療的ケア児等コーディネーターについて、市町村への配置を促進するため、養成研修を実施や先進事例の事例情報提供を継続して行う必要がある。 ・在宅医療における薬剤師・薬局の専門性を生かした、より質の高い医療が提供されるための取組を検討する必要がある。

17

3 第8次保健医療計画の骨子案（仮組み）について

3 第8次保健医療計画の骨子案（仮組み）について

【第8次保健医療計画策定の考え方とポイント】

- **これまでの計画の流れを踏襲**
 - ・ これまでの神奈川県保健医療計画の流れを踏襲し、現行の第7次保健医療計画の構成を基本として、骨子案を整理する。
- **新興感染症対策を新たに追加**
 - ・ 第8次計画から新たに事業として位置付けられる「新興感染症」を、新たに項目として追加する
- **医師の働き方改革**
 - ・ 令和6年4月から施行される「医師の働き方改革」について、第8次計画に必要事項を盛り込む。

3 第8次保健医療計画の骨子案（仮組み）について

○ 医療DXの推進

- ・ 医師の働き方改革や生産年齢人口の減少により、今後は限られた医療資源を効率的・効果的に活用していく必要があることから、新型コロナウイルス感染症対策でも神奈川モデルとして成果を上げた「ICT、デジタル技術の活用」を一層推進していくこととし、「医療DXの推進」として、新たに項目を追加する。

○ ロジックモデルの導入

- ・ 第8次計画から新たに「ロジックモデル」により計画の進行管理を行うこととし、必要事項を盛り込む。

○ その他

- ・ 県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科（SHI）の開設に伴う、項目名称の変更

⇒ **第8次保健医療計画の骨子案（仮組み）の詳細は、「別紙」のとおり。**

※ 最終的には、令和4年度末に国から示される「策定指針」を確認の上、骨子案を確定。

20

説明は以上です。